

公述意見（区域区分変更の構想（原案））検討結果

		桶川都市計画区域	市町村名	桶川市
公述人	公述意見要旨	検討結果		備考
1	桶川北本インターチェンジ周辺東部地区は、圏央道を軸として、関越自動車道、東北自動車道、首都高速道路網と、広域的に接続する首都圏有数の交通結節点である。さらに、上尾道路の延伸によって、南北方向のアクセス性も一層向上することが期待されており、広域物流拠点として、極めて高いポテンシャルを有している。 現在我が国では、物流の 2024 年問題をはじめ、人口減少やドライバー不足への対応が喫緊の課題となっており、国土交通省は、物流 DX、自動運転物流、共同配送、フィジカルインターネットの実現を重要政策として掲げ、物流全体の効率化と強靱化を推進しているところである。 このような社会情勢を踏まえると、本地区は単なる物流地区の集積地ではなく、これらの先進的な物流システムを実装する次世代物流都市として整備すべき。 例えば、自動倉庫、AI による物流最適化、自動搬送ロボット、自動運転トラックへの対応、自動運転物流、ドローン物流など、新しい物流技術の社会実装を見据えた都市基盤を計画段階から整理することが望まれる。	今回の桶川都市計画区域区分変更は、 ①桶川市内における企業立地需要の高まりにより、新たな産業基盤が必要とされていること ②上位計画である「第二次桶川市都市計画マスタープラン」などにおいて、工業系の土地利用を図る地区に位置付けられていること ③土地区画整理事業（個人施行）により計画的な市街地整備の実施が確実であること 以上 3 点の理由から当該地区の市街化区域と市街化調整区域との区分を変更するものです。 当該地区の具体的な土地利用計画及び都市基盤づくりに起因する諸対策につきましては別途桶川市の都市計画により定めることとなりますので、いただいた御意見につきましては、桶川市に申し伝えます。		
	近年、全国各地で大規模地震や豪雨災害が頻発している。 本地区は首都圏の高速道路網の中心部に位置していることから、平時の物流効率化だけではなく、災害時の広域物流拠点としても極めて重要な役割を担うことが期待される。救援物資や生活物資の集積、配送機能を備えた防災拠点として計画することは、首都圏全体の防災力向上にも大きく寄与すると考える。			

	地域住民の生活環境への配慮も重要である。 大型車両による交通渋滞や生活道路への流入、騒音・振動・景観への影響などについては、十分な対策を講じる必要がある。 幹線道路への適切なアクセス計画、緩衝緑地の整備、交通マネジメント、環境モニタリングなどを通じて、地域との調整を図ることを強く要望する。		
--	--	--	--